

学 校 教 育 目 標	きれいな学校、輝く笑顔
目 指 す 学 校 像	豊かな人生とよりよい社会を創造するために、生徒が自ら学び、自ら考え、主体的に行動できることを目指して、大人が力を合わせて子どもを支援する学校
重 点 目 標	1 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実、基礎学力の向上 2 「みんなが来なくなる大久保中」であるための生徒指導・教育相談体制、生徒の自治的活動の充実 3 コミュニティ・スクールとしての成長に向けた学校・家庭・地域の連携 4 安心・安全な学校であるための職員の危機管理意識の向上と学校の特色を生かす予算運用 5 一人ひとりが力を発揮できる学校であるための教職員研修と業務改善の充実

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達	A	ほぼ達成（8割以上）
成	B	概ね達成（6割以上）
度	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価	
年 度 目 標				年 度 評 価				実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	【現状】 ICTの活用については、校内の研修体制が整い、個人差も少なくなってきた。基礎学力の向上のための小中連携「大久保学園」の取組を精査し実施している。 【課題】 ○授業におけるICTの活用を、昨年度以上に全教科で日常的に行えるようにする必要がある。 ○「個別最適な学び」の効果的な取組や評価方法について学校全体で研究を進める必要がある。 ○他者と協働する活動は行えているものの、「他者との協働の中で自らの学習の状況を把握する」という視点が十分に行えるようにする必要がある。 ○教科横断的な視点に立った授業づくりを行う必要がある。	・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実	①全教職員が「主体的・対話的で深い学び」を行えるようになるための具体的な目標を設定し、研修主任が主導して、ICTを活用した「アクティブラーニング」型公開授業を実施する。 ②週1回定期的に行う研修会を中心に、「個別最適な学び」「教科横断的な学び」の研究を推進する。	①全教職員の「学びの指標」授業アンケートの結果の平均点が、1回目よりも2回目が上回ったか。 ②学校評価の教職員の個々に設定した目標について、すべての教員が目標を達成することができたか。					
		・小・中連携「大久保学園」の取組の充実	・関係小学校との共通理解のもと、基礎学力向上の取組を見直し、実施する。	・3校合同で行う研修会において、各プロジェクトで基礎学力向上のための具体的な目標と取組を設定し、実行することができたか。					
2	【現状】 生徒指導主任・教育相談主任を中心に、課題の早期発見早期対応のための情報共有が関係職員で行えている。発達支持的生徒指導の視点に立って学校行事や日常の学校生活における自治的活動の指導に学校全体で取り組んでいる。 【課題】 ○不登校生徒への対応について、外部関係機関との連携・協働を一層強化する必要がある。 ○学びの場や居場所の選択肢、学び方の選択肢の幅を広げる必要がある。 ○教育上の合理的配慮を含む生徒一人ひとりのニーズに応じた指導の充実を組織的に行う必要がある。	・生徒指導・教育相談体制の整備と充実	①Solaの一むの効果的な利用に向けた整備を行う。 ②教育相談主任、特別支援教育コーディネーターが主導して、外部機関と連携した不登校生徒の支援を実施する。	・「心と生活のアンケート」の要面談者数がどの学年でも3学期が、最少となったか。 ・いじめの積極的な認知に努め、訴えがあった際、即日対応を開始したか。 ・不登校生徒との連絡を定期的に行うことができたか。					
		・生徒の自治的活動の充実	①生徒主体の学校行事を実施する。 ②生徒主体の地域への貢献活動を実施する。	・生徒の学校評価「毎日喜んで学校に通っていますか。」の評価が昨年度よりも向上したか。保護者については、肯定的な回答の割合を維持できたか。					
3	【現状】 「育てたい子ども像」に基づいて学校運営協議会で一昨年度から実施している「大久保神社叢クリーン活動」は、軌道に乗りつつある。 【課題】 ○地域と連携した防災教育を進める必要がある。 ○「地域に開かれた学校」であるための取組を一層充実させる必要がある。	・一過性に終わらない、持続可能な地域との連携	①学校地域連携コーディネーターが主導し、「大久保神社叢クリーン活動」をはじめとする地域の活動を紹介し、参加を促す。 ②地域と連携した防災教育を実施する。	①「大久保神社叢クリーン活動」への生徒の参加数の維持、その他のボランティア活動の周知が行えたか。 ②公民館、自治会との連携が行えたか。					
		・学校教育活動の積極的な発信	①学校ホームページを定期的に更新する。 ②コミュニティ・スクールとしての取組を発信する。	①ホームページの学校だよりの翌月掲載、生徒の活動や保護者向けの啓発内容の掲載を行えたか。 ②「学校運営協議会だより」を、年間3回発行することができたか。					
4	【現状】 昨年度の登下校時の大きな交通事故、緊急搬送、アレルギー緊急対応、「希望溢れる学校づくり」相談票提出、施設管理の不備に起因する事故はゼロだった。 【課題】 ○危機管理に対する学年主任や事務主幹等の意識が高く、事故ゼロの状態を保てているが、経験年数の浅い教職員が増えていることから、生徒のきめ細やかな実態把握や教職員の更なる危機管理能力の育成、組織的な対応が必要である。	・教育効果を十分に発揮するための教材備品の充実、安心・安全な学校施設の整備	①事務職員が主導して、計画的な予算の執行を実施する。 ②安全主任が主導して、自転車通学の生徒の自転車安全点検、登下校時の安全指導、校内での安全な生活の指導を実施する。	①計画的な予算執行を実施できたか。 ②指導不足、確認不足による事故ゼロを維持できたか。					
		・危機管理能力を高める教職員研修の充実	①栄養教諭、養護教諭が主導して、アレルギー等緊急時の対応についての研修を実施する。 ②管理職が主導して、体罰暴言不適切な指導の根絶のための研修を実施する。	①栄養教諭、養護教諭によるアレルギー等緊急時の対応に関する研修を実施できたか。 ②体罰暴言等不適切な指導ゼロを継続できたか。					
5	【現状】 校務の情報化による校務の負担軽減を図り、教職員の指導力の向上を推進している。PLANTの活用により、キャリア段階に応じた研修の受講に努めている。 【課題】 ○「校務支援システム」「スクールダッシュボード」の活用体制をさらに整備する必要がある。 ○ベテラン職員にかかっている負担を軽減する必要がある。 ○「授業観察シート」によって、管理職や教員間の授業改善に係る対話をさらに活性化させる必要がある。	・業務改善の更なる充実	①各自が業務改善の目標を設定し、人事評価面談で、達成状況を振り返る。 ②管理職が主導し、学年主任とともに学年副主任を育成する。	①全員が業務改善の目標を設定し、実行することができたか。 ②学年主任とともに、管理職と学年副主任との面談を実施できたか。					
		・キャリア段階に応じた職員研修、個人のニーズに応じた研修の充実	①管理職が日常的に、「授業観察シート」を活用し、教職員の授業を参観する。 ②人事評価面談時に、PLANTを活用し、キャリア段階に応じた研修受講を奨励する。	①全員の公開授業または授業を参観し、指導することができたか。 ②当初面談で全員に研修受講を奨励することができたか。					